

都道府県名

岡山県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	岡山市立竜操中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	8	9	9	1	27	49
生徒数	294	335	327	8	964	

研究の概要

## 1. 研究主題

生徒個々の実態に応じた、きめ細かな指導法の研究  
～学習意欲の向上と基礎学力の養成をめざして～

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

- ・放課後の学習支援
  - 1年...週2回（月曜日＝英語、金曜日＝数学）の学習日を設定した。教科担当がつくったプリントを使用し学習した。
  - 2年...週2回、数学を中心に教科担当がつくったプリントを使用し学習した。
  - 3年...週2回の学習日を設定した。1学期前半は数学、後半は英語。2学期前半は国語、後半は数学で実施した。

各学年とも生徒・保護者の希望と教員の呼びかけによって参加生徒を募った使用するプリントの内容は基本的な内容のものを中心とし、基礎・基本の充実と生徒の、「問題が解ける喜び」を重視し、学習意欲の向上という点を重視した。

指導は、国語・数学・英語の教員を中心に、各学年で分担し、できるだけ多くの教員が指導にあたる努力をした。
- ・少人数指導
  - 1年生の数学で実施。
- ・授業改革
  - ・教科会の充実をはかることで、年間計画の見直し、指導法の改善、評価の仕方の研究をおこなう努力をした。
  - ・特に、日常的に学年や教科を越えて教員相互の授業参観をおこない、指導法の改善に努めた。また参観にいくだけではなく、教科や生徒の状況によってTT的な指導もおこなった。

## (2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 生徒個々の実態に応じた、きめ細かな指導法の研究 研究の見通し 年々変化していく生徒の学習態度・意欲の変化や、校内で起きる生徒指導上の問題の変化を考えた時、よりわかる授業、より楽しい授業を展開することで生徒により確かな学力を付けることができ、より充実した、より落ち着いた学校生活を送らせることができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法 ・放課後の学習日进行、基礎基本の充実をはかり、さらに学習意欲を向上させることを目標に、より効果のある補習的な学習の形態を探る。 (自作プリントの工夫、指導体制の充実など。)</p>
--------	---

・「わかる授業」の展開。  
 ( 教員相互の授業参観により、自らの授業をどう変えていけるか。)

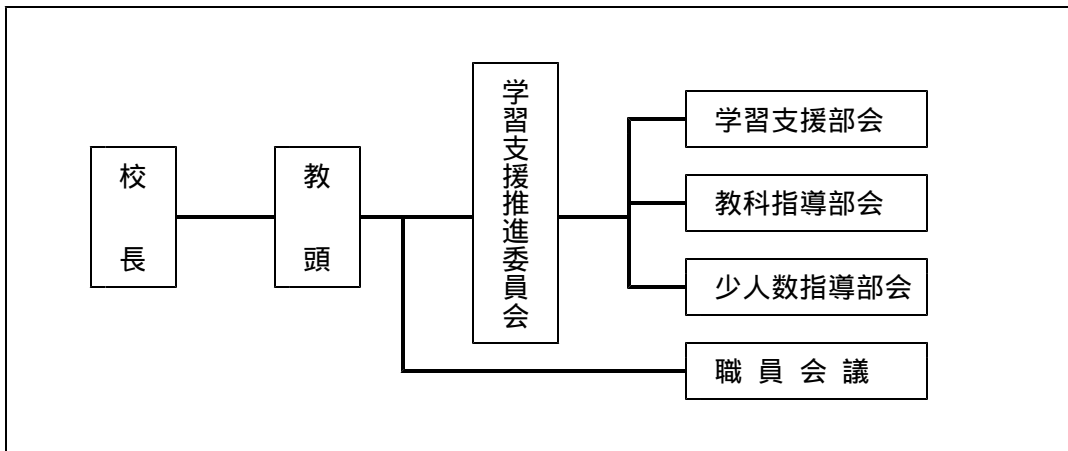
平成16年度

テーマ  
 生徒個々の実態に応じた、きめ細かな指導法の研究  
 研究の見通し  
 昨年度同様、年々変化していく生徒の学習態度・意欲の変化や、校内で起きる生徒指導上の問題の変化を考えた時、よりわかる授業、より楽しい授業を展開することで、生徒により確かな学力を付けることができ、より充実した、より落ち着いた学校生活を送らせることができるのではないかと。

研究の内容・方法

- ・放課後の学習日を週2回、長期休業中(夏休み)の学習日を約2週間設ける。自作プリントを数種類作成することにより、習熟度によって個々の状態に合ったものを選択できるようにする。指導体制(教員の意識、人数、場所等)を充実させる。以上の取組を充実させることにより、基礎基本の充実、学習意欲の向上をはかる。
- ・教科会の充実  
 詳細な各教科の年間学習指導計画の制作。補助教材の開発。教員の相互授業参観による「開かれた授業」「よくわかる授業」の展開に向けての職員研修の充実。職員の意識の向上させるための職員研修の充実。習熟度別少人数指導に向けての体制の整備。以上の取組を充実させることにより、基礎基本の充実、学習意欲の向上をはかる。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・放課後の学習支援に参加している生徒からは  
 「学習会に参加してみて少し問題が解けるようになった」  
 「学習会を楽しみにしている」「他の教科もやって欲しい」  
 などの前向きな感想をきくことができた。つまり、この生徒達の学習意欲という面では向上しており、問題が解ける喜びを少しでも感じる事ができたのだと思う。こういう生徒は、授業の中での態度も明らかに変わってきており、学習支援の成果ととらえることができると思う。  
 また指導する教員側の意識も、この取組の中で徐々に高まってきていると思う。例えば、生徒がどういった面でつまづいていたり、理解に苦しんでいるかを、直接指導することで、通常の授業にもその経験を生かすことができている。
- ・教員相互の授業参観に関しては、ややもすれば閉鎖的になりがちな授業をオー

ブンにすることで、授業者の意識を高めることができている。批判を交えての意見交換は、自分のスタイルに固執しがちな教員の意識を少しずつではあるが、変えていくことに役立っていると思う。そして、この教員の意識の変化が、授業改革のきっかけになりつつあり、「学力の定着の基本は授業であるが、教員はそれぞれの授業の中でどれだけのことを教えることが、定着させることができているのだろうか。」という点に帰って考えるきっかけになっている。

## 2. 今後の課題

- ・教員の意識の向上  
ある程度の成果をみることはできたが、飛躍的な進歩とは言えないと思われる。教員個々が指導法等の研究・実践をしていくうえでも、意識の向上につながる研修等はさらに充実させていく必要がある。
- ・教科会の充実  
16年度は月数回の教科会を定例化することによって、授業改革に取り組んでいきたい。
- ・評価の見直し、わかりやすい説明  
放課後の学習支援の参加にしても、個人選択制の習熟度別授業を今後取り入れていくにしても、生徒や保護者が積極的に参加するために、現在の習熟度が確認できる評価の検討は不可欠である。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力検査（年2回予定）
- ・教科毎の授業内の確認テスト（予定）

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

現在計画中

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                         10～12学級  
                                  13～15学級                     16学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       数学                       理科  
                                  外国語                       音楽                       美術                       技術・家庭  
                                  保健体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無